

取材先	関門五行歌会		
企画名	秋の五行歌展in下関		
取材日	2021年11月23日(祝・火)天候[くもり] [10:30~11:30]	取材地	下関大丸7階 JOIN083

レポート

「五行歌」とは、短歌・俳句に続く第三の短詩型で、五行に書くというほかに特に制約はなく、季語もなく、大人でも子どもでも気軽に楽しめる歌のことです。  
 関門五行歌会は、五行歌を発表し合い、合評する歌会を中心として学習研究を行い、展示などを通して、広く市民の方に五行歌の魅力を発信する活動をされています。

今回は、11月20日～23日にかけて、関門五行歌会の色紙展と全国組織の「五行歌の会」写真パネル展にあわせて「漂彦龍VSアーティスト展」が下関大丸で開催されました。「漂彦龍」とは会の代表である佐々木氏の歌人名で、漂彦龍氏が詠んだ五行歌に、写真や絵画、アニメーションの背景美術などのアーティストたちが独自のイメージを表現し、歌と合体させた作品が展示されていました。日常生活の中での情景が浮かんでくるような歌から、「なるほど」と思わせるもの、奥深い作品など、どの歌も五行の中に見事に表現されていました。

佐々木代表いわく、五行歌の魅力を一言でいうと「自由」。五行という縛り以外は何の制約もないので、幼児から高齢の方まで、あるいは、言語や学習や認知に障害を抱えている方たちも、それぞれの思いを自由に表現できます。

また、埼玉県の中学校では、授業で五行歌を書く時間があり、子どもたちの思わぬ本音が出て、それが教育現場で評判になっているなどの話から、今後の会の活動として、コロナが落ち着いたら、下関市の学校でも教育現場に五行歌を取り入れるような働きかけをし、活動の場を広げて行きたいと話されていました。

今回の取材を通して、佐々木代表の五行歌に対する熱い思いに触れ、「五行歌だったら、私にも書けるかも？」という気持ちにさせられました。

状況写真



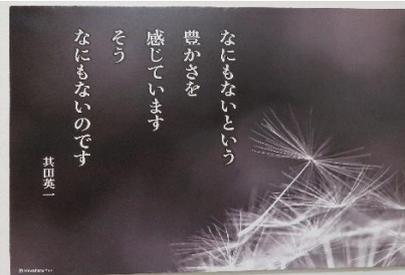
左: 恵遊さん(会員)  
中央: 漂彦龍氏(会代表)  
右: MICHIOさん(アーティスト)



関門五行歌会色紙展



五行歌の会写真パネル展



伝説の歌人 故・其田英一氏の歌



漂彦龍  
× エド・はるみ



天井から吊り  
下げられた作品



関門五行歌会の  
冊子『ペンで』